



さざんか



毎日笑顔で楽しくがんばってます (宝塚あしたば園)

内容

- 松井理事長より
- グループホームが直面する課題
- 事業所探訪 (宝塚あしたば園)
- 事業所だより 新年度スタート
- 後援会会長より
- 日誌
- 突撃! 隣のグループホーム (桜ガ丘ホーム1・2)
- ボランティア訪問
- 事業所市民見学会
- 人事・編集後記
- さようならバザー
- 看護師さん・栄養士さんの知恵袋

発行 社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会/宝塚さざんか福祉会後援会
運営事業所 宝塚さざんかの家 宝塚あしたば園 宝塚めふプラザ 宝塚けやきの里 ワークプラザ宝塚
かしの木工房 こはま いきいき宝夢 障害者就業・生活支援センター (あとむ)
相談支援センター (だんぼ) 地域生活支援センター
法人事務局/後援会事務局
宝塚市安倉西3丁目1番5号 宝塚さざんか福祉会 電話0797-83-6544 FAX0797-83-2510
<http://www.sazankafukushi.org/>

住み慣れた地域で 安心して暮らしていくために

理事長 松井 美弥子

後援会の皆様には、いつも当法人を応援いただきまして有難うございます。

平成28年度も新卒者11名の方が、当法人の利用者になりました。昨年度より法人の7事業所の特性を明確化して、利用者の方が安心して利用でき、支援を受けやすく、また支援者が支援をしやすくなる様に、各事業所長等でワーキングを重ねております。各事業所とも課題は沢山ありますが、前向きに検討を進めておりますので、もうすこしお時間を賜りたいと存じます。

法人運営のグループホームが20か所ありますが、消防法の規定により、スプリンクラーの設置が必須になり、運営者としては苦慮しております。特に古い借家等にはスプリンクラーの設置は無理ですので、平成30年3月までに移転しなければなりません。幸い、宝塚市内の地主の方が、ホーム用住宅を建て、当法人に貸して頂けるというお話がありまして、現在、消防法の規制をクリアすべく進めております。しかしこのことで、利用者の方はせっかく慣れたホームからの移動を余儀なくされます。ご家族の皆様にはご心配も有るかと思いますが、これから長く安心して地域で生活して行くためのステップだとお考え戴いて、前に進んで戴けたら嬉しく存じます。

グループホームが直面する課題

常務理事 和田 縉市朗

宝塚さざんか福祉会がグループホームの運営を始めたのは、平成19年10月、宝塚市手をつなぐ育成会から12のホームの移管を受けたのがスタートです。その後、毎年のようにホームを開設し、今では20ホームにもなり、利用者も90名を超えるまでになりました。

入居されている方々のホームでの様子は、毎号「突撃！隣のグループホーム」で紹介していますが、本号でも「桜が丘ホーム1・2」の訪問記事で利用者皆さんの和気あいあいの楽しそうな暮らしぶりを紹介しています。

このように知的障害のある方々が、地域で普通の暮らしができるようグループホームを整備、充実することの重要性は言うまでもありませんが、一方では、法人のホーム運営は、いま大きな課題に直面しています。それは、職員が思うように確保できないことです。

最近のホーム利用は、土日祝日を含む365日のホーム利用が常態化してきています。このため職員の勤務日数が大幅に増加し、これに見合う職員の増員や、さらには退職者の欠員補充が、ここ数年の福祉職場に

厳しい雇用状況下で思うに任せず、日々の職員配置にも支障が生じかねない状況になっています。このような状況が続くとホームの閉鎖という最悪の事態にもなりかねません。

このため、当面、ホームの運営を法人全体で支えるため、昨年10月から各通所事業所から毎週1回、職員1名がホームに勤務するバックアップ体制を始めました。しかし、このバックアップ体制は通所事業所にも大きな負担をかけているため、いずれは何かの方法で解消しなければなりません。それには、言うまでもなく一にも二にも「人材確保」が不可欠で、このため法人ではハローワークや新聞折込だけでなく、人材確保プロジェクトチームを立ち上げて各メンバーの多様なネットワークや個別のつながりを活用した求人活動を展開しているところです。皆さんも、この人ならと思われの方がおられましたら法人事務局へお知らせください。



ぶらぶら 事業所探訪

さざんか福祉会には沢山の事業所がありますが、其々の事業内容やその特徴、どのような利用者さんを対象に…、その支援体制は、作業は主に何をしているの、雰囲気は…等を広報部員が訪問し、シリーズで掲載致します。

宝塚あしたば園

若くエネルギーシユな山下所長にお話を伺いました。

あしたば園の名称の由来は「あした葉は今日摘んでも明日すぐまた生えてくるというくらい生命力の強い植物で、あした葉のようにたくましく人として生きる力を活動を通じて培っていく」という心意気から生まれたそうです。



宝塚さざんかの家について、2番目の通所事業所として昭和61年に利用者さん30名を迎え開設され、平成8年に利用者さん10名が新たに加わり隣接して別館を併設したそうです。

定員は40名ですが、2年前にあしたば園の分場として安倉南作業所が近隣の場所に開設されたので、現在は男性32名、女性17名で計49名、平均年齢は35歳だそうです。職員数は22名ですが、マンツーマンの支援が必要な利用者さんが増えていてまだまだ人手が足りないそうです。

あしたば園の特徴を伺うと

- * 障害の重い利用者さんが多い。
- * 気持ちのサポートに重点を置いている。
- * 生活面・安全面などの配慮を大切にしている。

3点を挙げて、生活面の支援を大事にされているとのことでした。人の行動には何らかの理由があるのでその理由を見つけて対処されているそうです。(利用者さんの行動をしっかりと見ていると出来ないことです)

利用者さんのなかには新しいことにチャレンジしたい等の希望があります。他の事業所を実習するに当たり、どこ部分をサポートすれば良いのか考えながら支援した結果、今年は本人の希望通りの異動が叶ったそうです。

【生産活動】

働くことの意義として作業を通じて社会での役割を確認し、労働意欲を高めることを目的としています。

「自立課題」

作業前にもう一段階簡単な作業をして、達成

感や本人のやる気を引き出します。好きな作業から取り組んでいました。

「活動内容」

「本館」

6〜7名の利用者さんに2名の支援員さんがサポートしています。



* 企業提携作業の車の部品の組み立て、段ボールの組み立て、企業フェンスネジの組み立て等を慣れた手つきで黙々と…。

マイペースで、席に座ったまま休んでおられる利用者さんや、お気に入りピアノのキーボードを手元に置き、作業をされている方など様々でした。但し、見学者が入ると皆さん少し張り切って作業されるそうです。

* リサイクル事業のアルミ缶プレスの作業は屋内と屋外でされているそうです。屋内は手でひとつずつ缶を潰す道具が設置されていて、屋外では手動と電動式缶プレス機の2種類があります。電動式はアルミ缶を穴に入れると瞬時に





缶が潰れて、下に置いてあるかごに出て来、あまりの速さと見事な圧力に驚きました。缶潰しが大好きで、得意な利用者さんが屋外で手動の缶潰しを一生懸命楽しそうにされていました。(雨天時用のテントも張ってありました。)

「別館」

自閉症の方が多く、作業場は落ち着いて安心して作業に取り組めるようにと仕切りがされ、個別のスペースが設けられています。利用者さんの個性に合わせているのですね。



「作業の工夫」

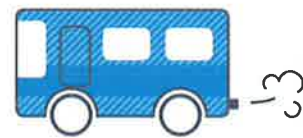
磁石の組み立て作業をするのに、試行錯誤を積み重ね、トレーに絵や仕切りをして見てわかりやすく工夫されたとのこと。また、壁に今日の作業内容(油性ペン)がボードに書かれていましたが、日付(水性ペン)が



自力での通所は一人です。あとは送迎が必要な方がほとんどですがバスを利用される方が増えているようです。又、10名超の方がグループホームに入居されています。

「お風呂棟」

宝塚あしたば園には事業所で唯一お風呂棟があります。利用者さんのなかには、トイレ(排泄)の失敗をされる方が時々おられます。身体をきれいにするにはやはり、入浴してさっぱりしていただきたいものです。寒い冬はなおさらです。生活面の機能として設置され、定期的に活用する利用者さん多いそうです。



気になるのか利用者さんがすぐに消してしまうので何とか解決方法をと考えているそうです。受注に奔走しなくても仕事は切れ目なくあり、有難いことですよと言われていました。

【待ちかねたお昼ごはん】



食堂は本館2階にあり、高い天井と大きなガラス戸でたいへん明るく気持ちの良い部屋でした。カウンター前には座席があり、座る椅子が決まっているようです。



あしたば園での美味しい昼食♪



今日の献立は『そぼろ丼・たらこスパゲティ・味噌汁・果物』で、さすが利用者さんの平均年齢35歳の内容でボリュームたっぷりでした。ほとんどの利用者さんは食堂でみなさんと一緒に食事をされますが、なかには介助が必要で他の部屋で食事をされている方がありました。

【生活支援プログラム】

生きていくため・働くために必要なスキルを身につけるために、ニーズに即した取り組みや活動を提供されています。



わかりやすくイラストで説明されています

「活動内容」

料理：グループ間の交流を目的にひと月に一度軽食を作り、食します。作れるようになるように何度か同じメニューを作ります。

水泳：市のスポーツセンターでひと月に1度水泳が好きな利用者さんを対象にボランティアさんと一緒に泳いだり、歩いたり、水の感触を楽しみながら体力づくりをします。



お話し会：ボランティアさんが本を読んで下さったり、手遊びをして、楽しい時間を共有し、リフレッシュします。



「ありがとう」「お疲れ様」と利用者や保護者の方々に声をかけて頂いた時がうれしく、モチベーションになります。又、地域の人達や他職の方々が障害福祉に興味や関心を持って頂いた時が嬉しく感じます。

(山条 幸介 支援員)

その他買い物物、外食、ウォーキング、スポーツレクリエーション、スノーズレン、制作活動など。



日帰り旅行でひらかたパークへ

【オートロックの電子錠】

あしたば園の門扉は最新の電子錠です。以前の門扉は支援員さんが気が付かないうちに自分で錠をはずして外へ出て行く利用者さんがいた為、大きな事故につながらないように取り付けられたそうです。



【支援員さんが仕事をして良かったこと】

「ありがとう」「お疲れ様」と利用者や保護者の方々に声をかけて頂いた時がうれしく、モチベーションになります。又、地域の人達や他職の方々が障害福祉に興味や関心を持って頂いた時が嬉しく感じます。

利用者さんの笑顔が見られることが一番嬉しいことです。相談支援、就労支援、生活介護と場所を変えて知的障害の方々に関わらせて頂くことができました。その人自身がこうしたい、こうなりたいという思いを実現する為のお手伝いをするのがこの仕事だと考えています。



(鶴田 征吾 支援員)

取材を終えて、宝塚さざんか福祉会の数ある事業所のなかで「お風呂棟」や「電子錠」等、他の事業所にはない設備を見せていただき驚くばかりでした。今後も利用者さんにとって必要な設備を設置出来るようになればと願います。山下所長を始め、職員の方々が利用者さん一人ひとりに対して熱意を持って接しておられるのを目の当たりにし、頭が下がる思いでした。貴重な時間を割いていただきありがとうございます。

(広報部)

事業所だ



ワークプラザ宝塚

物の配置によって、雰囲気が変わり、狭いと感じていた作業室が広く感じました。
そして今年度は、新入所者1名、職員2名を迎え、4月は緊張した空気が漂っていたと思いましたが5月に入ると徐々に落ち着きを取り戻しています。
長年利用されている利用者の力はすごい！



宝塚けやきの里 職員一同

毎年4月初日にワークプラザ宝塚全員が集まり、利用者と保護者が対面式で座り自己紹介をする形をとる様になって5年が経ちます。
上手く自分の言葉で想いを伝えられなかった人も確実に上手く自己紹介出来る様になってきました。
今年度は新入所者4名、職員2名を迎え、新たな気持ちで色々な事に挑戦

より

新年度スタート

宝塚せざんかの家

さざんかの家では、昨年度末に大きく席替えを行いました。年々、年度の変わり目がわかりにくいこの頃ですが、席替えをして場所が変わる事で新年度の雰囲気を感じて頂く事と、利用者の方々が穏やかに生活でき、落ち着いて作業に取り組んで頂けるようになればと思います。
平成28年度になり1ヶ月が経ちました。環境が変わった事で昨年度より笑顔が増えた方、落ち着いた方、慣れるのに少し時間がかかる方等それぞれおられますが、皆さんが笑顔になれるよう、常に考えて支援していきたいと思えます。



(加堂 祐介)

宝塚あしたば園

あしたば園は今年度新しく2名の方をお迎えしました。それに伴い安倉南作業所も

利用者さんが14名に増えました。異動してきたばかりの利用者さんが玄関とフロアをそわそわと行き来されることがありました。慣れない場所で不安もあったと思います。が、お話をしていくと「屋外に出たかった」と話して下さいました。当たり前のことなのですが、利用者さんの気持ちを確認しながら活動を決めていくことって大事ですね。



(元治 里恵)

宝塚めふらプラザ

めふらプラザに介護等体験実習の大学生がやってきました。実習生が来るというんなメリットがあります。利用者の方は、触発されて、いつもより作業も3割増しで頑張ってくれます。職員はというと、折角、学生さんが来てくれるので、何か感動を持って

をしていくという想いでいっぱいです。
全員作業着を着て精一杯頑張るぞという気持ちでワークプラザ宝塚の新年度がはじまりました。

ワークプラザ宝塚 職員一同

かしの木工房 こほま

昨年度後半から少しずつ企業提携班の作業室の環境改善を行いました。
はじめは作業方法や工程を視える化するためのカード等小さいものから改善し、年度替わりを機に作業室を二分して机や棚を整頓しました。



これらの改善を実施して感じたことは、利用者にとつて分かりやすい環境は同時に職員にとつても分かりやすいということですね。「視覚支援」というと何か難しそうですが、「みんなのため」の視える化」と思えば工夫も楽しくなります。手話がそうであるように視える化も、障がいのある人のためだけにあってはならないという事に気づきました。

(田畑 敦彦)

帰ってほしいと、活気づきます。そういった良いスパイラルが働きます。

でも、長い事同じ職場で顔を合わせていると、慣れてしまつて見過ごしていたものにも気が付きます。



めふらプラザの職員は、いずれも働き盛りのパワフルな職員ぞろいですが、なんとというか何か足りません。
なんだか落ち着いてしまっている...。それが、実習生が来る事によってわかりました。そう、それは若さです！
今年度は落ち着いて茶をすすっている場合じゃないぞ！チームMe!!
実習生に見られる事にも気を配り、背筋を伸ばして、言葉遣いや支援する指先にまで気合いを入れて頑張つて行こうと思えます。以上！

宝塚めふらプラザ 職員一同

宝塚けやきの里

新年度を迎えるにあたり、作業室の環境整備を行いました。
安全で清潔な作業環境をイメージして机や棚の配置変更をし、席替えをしました。

サザンクオリティ

出張販売いたします！



お客様からご紹介を頂きまして去る5月9日、大阪堂島『AN Aクラウンプラザホテル』にて生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会の大阪大会主催の会合での販売に参加させていただきました。
大阪の5事業所の中でアウェイな状況でしたが宝塚をアピールした商品のラインナップとラッピングにも工夫して華やかさを演出！笑顔で販売できました。
(このように販売先のご紹介をいただきますと大変ありがたいと思います。)

(木ノ下 美智代)



さざんか同窓

日々暑さが迫ってきていますが、皆様どのよう
に暑さ対策していますか？

いきいき宝夢
でも半袖で過ご
される方が増え
てきている中、
今年入社の新入
職員が激アツ。
「どうせ目指す
なら、さざんか
で一番を目指し
ましょう！」
気付けば、私
も働き始めて2
年目になりました。
忘れかけてい
た1年前のアツい気持ちを思い出し、日々仕事し
ていきます。



(橋川 杏奈)



小田切の暮らし...

皆様こんにちは。平素は、宝塚さざんか福祉会
後援会に多大なご協力・ご支援を賜りまして誠に
ありがとうございます。

『平成28年熊本地震』で被災されました皆様は、
心からお見舞い申し上げます。一日も早く復
興されますことをご祈念申し上げます。

先日、大手ショッピングモールで、GGカード
(ジジーカード)を作りました。GGの意味を知
りたく、GGとは、『グランド・ジェネレーショ
ン』小山薫堂氏が、シニアに代わる考え方。『グ
ランド』は、最上級を意味し、人生の中で最上の
世代と据え、若々しく年齢を重ね、豊かな知識と
経験をもちながら人生を様々なスタイルで楽しま
れている年長者を敬意をもって表している世代の
考え方だそうです。

元氣な55歳が、ジジーかと思いましたが、世に
役立つお洒落なGGを目指します。

働ける年齢(定年)も上がっています。一方、介
護が必要な方も増えています。

高齢化社会に直面している今、今年度は特に皆
様からご意見を頂戴して少しでも法人利用者様、
親御様にお役に立てるよう努力邁進いたします。
そう言っても、元氣な若い方には体力では、か
ないません。皆様のご協力ご支援を今後共よ
しくお願い申し上げます。

宝塚さざんか福祉会後援会
会長 小田切 隆幸

日誌

自平成27年12月1日
至平成28年4月30日

- 12月1日 さざんかの家
- 12月5・12日 「愛の鍋 ふれあいバザール」参加
- 12月9・16日 さざんかの家 凧教室
- 12月10日 かしの木工房 こはま 日帰り旅行
- 12月10日 さざんかの家もちつき大会 (ライオンズクラブ)
- 12月11日 あしたば園 日帰り旅行
- 12月29日 ワークプラザ宝塚 大掃除・お楽しみ会
- 1月7日 けやきの里 保護者合同新年会
- 1月14日 法人採用内定者(顔合わせ)研修
- 1月21日 さざんかの家 保護者合同新年会
- 1月29日 めふプラザ 新年もちつき大会
- 1月30・31日 イオンモール伊丹 にじいろフェスタ販売参加
- 2月19日 めふプラザ ステンドグラス 体験教室(愛の持ち寄り寄付)
- 3月11日 東日本大震災支援プロジェクト
- 3月14日 「揚がれ!希望の凧2016」に、さざんかの家参加
- 3月14日 法人採用前職員研修
- 3月25日 こやの里特別支援学校・宝塚養護学校の生徒、保護者向け見学会



突撃!隣のグループホーム

第十四回 桜ガ丘ホーム1・2



4月12日夕刻桜ガ丘
ホーム1・2を訪問し
ました。宝塚駅から北
へ坂道をグングン上がっ
たところに2階建ての
ホームがありました。
眺望は素晴らしいとこ
ろですがこの坂道を毎
日通われている方たち
は大変です。

先ず...

夕餉のにおいに誘わ
れるように1階の桜ガ
丘ホーム1へお邪魔し
ました。食卓には夕食
(鮭ごはん、みそ汁、
煮込みハンバーグ、ナ
ムル、お浸し)が並べ
られ、リビングでは入
浴も済ませてすっきり
した皆さんが笑顔で迎
えてくださいました。



嶋田さん、古澤さん、坂本さん、小林さん、中
川さんが食卓に着かれて、「いただきます」。一
番人気は鮭ごはん。次々とお代わりされ、食べ終



えた方から流しにご自分の食器
を運ばれ、それぞれの自室へ。
日中活動はワークプラザ、かし
の木工房、めふプラザ、こむの
事業所。

ヤマト運輸を定年退職後ワークプラザを経て高
齢者施設に再就職された嶋田さんは、暗証番号で
入館、タイムカードもパソコンに入力するなど職
場の様子を話してくださいました。

8時頃から皆さんでティータイムをされた後は
自室でゆっくり過ごされ、9時には就寝される方
もいるとか。朝食は6時30分、8時前後には仕事
場へと規則正しい生活です。駅前まで歩いてJR、
阪急電車、阪神バスでそれぞれの職場へ。

最後に、お部屋を拝見させてもらいました。見
たところはすっきり、でも押し入れの中は...と支
援員さんの言葉。武市支援員さんは間もなく配置
替えでこのホームとはお別れだそうです。「お礼
に花束でも...」という声に大きな体で皆さんを見
守っておられた様子が伺えました。週に1、2回
代替えの支援員さんが入られるので日常の引継ぎ
の難しさはあるが、どの支援員も同じ支援ができ
るように気を付けているとのことでした。このホー
ムは後付けでスプリンクラーが設置され安全とは
いえ天井に大きなパイプがむき出しにはちよっと
驚きました。

次に...

外階段を上って桜ガ丘ホーム2へ伺いました。
入浴も食事も終えて寛がれているところへ。
こちらのホームの山本さん、栗原さん、長谷川
さん、勇山さんたちも気持ちよく迎えて下さいま

した。岩崎支援員さんか
ら「もう一人、前川さん
がまだ育成事業所からお
戻りになっていない」と
伺いました。「途中で、
電車を見ているかも...、
でも、もうすぐ帰られる
と思います」とのこと。
常に育成事業所の職員と
連絡を取り合いながら見
守ってられます。



夕食のメニューは下の方たちと今日はいっしょ
でした。週に一度くらいは同じ献立のようです。
あとから、瀬木調理員さんも上がってきて後片付
けをされていました。食後はリビングで皆さん一
緒にテレビを見ることが多いそうです。
支援員さんも入ってもらいお話を伺いました。
夕食の鮭ごはんの話や、かしの木工房でのケーキ
づくり、ワークプラザでの作業の様子など身振り
手振りを交えながら話して下さいました。こちら
も8時からティータイムで、あとは各自のお部屋
でゆっくりと過ごされます。支援員さんは「職場
では緊張してらるだろうからホームはリラックスす
るところであり、それぞれに余暇を楽しむ時間を
大切にしている」とおっしゃっていました。

二つのホームとも皆さんとても穏やかに生活さ
れている様子でした。中にはもうご両親が亡くな
られている方もいらっしゃるようですが、支援を
受けながらも仲間とともに、しっかりと暮らしてお
られる様子が安堵しながらホームを後にしました。

(広報部)

ボランティア訪問

今回はテニスマーク出身の女性がボランティアをされているとお聞きし4月21日「宝塚めぐみプラザ」を訪問しました。

案内され2階の作業所に入ると、ご本人はすぐに分かりましたが、通訳の人もいないので戸惑っていましたら、流暢な日本語で「セニアです」と自己紹介されたのでおどろきました。彼女は昭和53年に日本に来られ昭和55年からずっと宝塚にお住みで、阪神大震災もこの地で遭遇なさったそうです。4人のお子さんと7人のお孫さんがいらっしやるそうです。さざんか福祉会との出会いはアピアでの展示会だそう。ずっと企業で働いていらしたそうです。が、体調に不具合が生じ、ここ何年か、家に閉じこもる日々を過ごされていたそうです。ご自身も手芸がお好きで手作り作品(靴下やアクセサリー)を作ります。と苦笑されていました。阪神特別支援学校に研修に行かれたことのある息子さんにも勧められて「社会と触れ合え、職人肌の自分に向いているので、お役に立てれば」と、始められたそうです。



日本に来られた一番の動機はと聞きすると諺を引用され「隣の芝生は青い」と!! 憧れを持って来日されたそうです。「全てを許し、全てを受け入れる」等々、古い日本人の心をお持ちなのでビックリしました。ご自身の体調のこともあり、現在は、週1回2時間だけのボランティアですが、担当のプリザーブドフラワー(注)のパーツ作成は、彼女のメインの仕事

事で「あてにされ、信頼されている」と実感し、ご自身にも楽しい時間だそう。また、利用者さんとのふれあいが楽しく、声を掛け合ったり、ハイタッチを求められたりと、嬉しそうに応じられていました。利用者の方とも自然に国際交流ができ、お互いにとっても良い刺激になっているようです。

お洒落で、明るい方で、私達にも沢山お話をして下さいましたので、とても楽しい時間がありました。本当にありがとうございました。(広報部)



(注)プリザーブドフラワー

新鮮な生花を脱水作用がある脱色液に漬けた後、潤滑液入り着色液に漬けた後、取り出して乾燥させたもの。水を与える必要がなく、生きた植物と比べても遜色のない、瑞々しい質感と柔らかさがあって軽い。保存環境が良ければ長期に形を維持する。花粉アレルギーの心配が無いので病院での見舞い花としても利用できる。

事業所市民見学会 平成28年2月9日(火)

毎年恒例の事業所見学会が2月9日火曜日に行われ、市民の方5名を含む参加者30名の皆様と「宝塚けやきの里」および宝塚いくせい会新事業所の「来夢」「つばさ」を見学させていただきました。

「けやきの里」では、パワーポイントを使っての説明があり、支援上のスタンスや考え方・「働く意欲」「働く力」を育んでいくこと・一日の作業の流れについて・行事



等の紹介、をしていただきました。

お話を伺った後は2班に分かれて作業見学をしました。現在は箱折り、タオルをたたんで箱詰めなどをしていきます。また昨年4月頃からは、西谷地区の株式会社えびす島田様よりお仕事をいただき、今までに受託加工品を約八千個完成させて納品したそうです。この受託加工は爪楊枝に糊をつけて貼る作業ですが「今後は少しでも高度な作品にチャレンジして受託を発展させていきたい」との思いも伺いました。

その後バスで移動し、オープン前の「来夢」「つばさ」を見学しました。玄関のドアを開けると木の香りが心地よく、風が強く寒い日にお部屋を暖かくして迎えて下さったお心遣いに気持ちも温かくなりました。

建物は賃貸で30年間の契約のようです。地主様のご厚意で、いくせい会の要望を受け入れて頂き、色々な思いの詰まった建物が出来上がっていました。キッチン・バス・トイレなども素敵な空間になっていました。「来夢」で訓練し、親が亡き後もグループホームなど地域で生活できるようにしていくこと。また「つばさ」では日中一時支援をしていただくことで保護者の皆様もホッとする時間を持てるのではないのでしょうか。



見学後はCOCOROに移動して珈琲とケーキをご馳走になり歓談後、解散しました。職員の皆様、お世話になり有難うございました。(事業部 藤井 芳子)

人事

I 4月1日付異動

1 兼ねて事業所運営統括 今西 則行 (相談支援・権利擁護担当参事)

2 職員

- 宝塚めぐみプラザ 任用替 田中 基彦 (宝塚めぐみプラザ)
- ワークプラザ宝塚 任用替 田中 未奈 (宝塚めぐみプラザ)
- かしの木工房 こはま 任用替 原田 涼平 (ワークプラザ宝塚)
- かしの木工房 こはま 任用替 樋口 真麻 (かしの木工房 こはま)
- いきいき宝夢 任用替 守田 卓司 (いきいき宝夢)
- いきいき宝夢 任用替 橋川 杏奈 (いきいき宝夢)
- さざんかグループホーム 豊田 篤史 (かしの木工房 こはま)
- さざんかグループホーム 任用替 大略 明生 (さざんかグループホーム)
- さざんかグループホーム 任用替 三分一 沙耶 (さざんかグループホーム)
- さざんかグループホーム 任用替 後中 高典 (さざんかグループホーム)
- 宝塚市障害者就業・生活支援センター 任用替 藤井 美保 (宝塚市障害者就業・生活支援センター)
- 相談支援センター 岸本 朋子 (新規採用)

3 嘱託職員

- 宝塚めぐみプラザ 古田 久美子 (新規採用)
- 宝塚めぐみプラザ 松森 竜 (新規採用)
- 宝塚めぐみプラザ 岸部 留美 (新規採用)
- 宝塚めぐみプラザ 小寺 智也 (新規採用)
- 宝塚めぐみプラザ 有村 健人 (新規採用)
- 宝塚めぐみプラザ 川越 弘人 (新規採用)
- 宝塚めぐみプラザ 下 千映子 (新規採用)
- ワークプラザ宝塚 羽土 雄貴 (いきいき宝夢)
- かしの木工房 こはま 吉村 美和 (新規採用)
- いきいき宝夢 下吹越 里穂 (新規採用)
- いきいき宝夢 木水 典子 (新規採用)
- さざんかグループホーム 村田 宏樹 (新規採用)
- さざんかグループホーム 岩崎 優大 (新規採用)
- さざんかグループホーム 三神 文恵 (新規採用)

II 3月31日付退職

- 藤原 利枝子 (宝塚めぐみプラザ)
- 上野 真木 (宝塚あしたば園)
- 吉田 敦子 (宝塚けやきの里)
- 矢野 香 (ワークプラザ宝塚)
- 玉谷 智美 (いきいき宝夢)
- 奥野 和彦 (さざんかグループホーム)
- 水津 美佐子 (さざんかグループホーム)
- 崔 晶皓 (宝塚けやきの里)
- 堀 清 (いきいき宝夢)
- 吉里 亮 (さざんかグループホーム)

編集後記

4月14日以降、熊本県で発生した地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

テレビ・新聞等の報道に触れる度、21年前の阪神淡路大震災のことを思い出さずにはいられません。障がいのある子どもを抱えて避難所に行くことさえ憚られ、途絶えたライフラインの中、家の片づけに追われた日々。当たり前にあると思っていた日常を突然断たれた恐怖や将来に対する不安。平穏な日々を取り戻すのにどれほど多くの時間と労力が必要か計り知れません。被災された障がいのある方やそのご家族にも適切な支援の手が届きますように。

今回より広報を担当することになり、あしたば園と桜が丘ホームの取材に伺いました。桜が丘ホームでは、利用者さん達に色々な話を聞くことができました。「ホームでの生活はどうですか?」こんなおどろきっぱな質問にも丁寧に答えていただきました。「悪いところは仲間がいる事」「グループホームのメリット・デメリットをなんと的確に言い当てておられることでしょう。他人と生活することの不自由さもありながら、でも一人では生きていけない。グループホーム運営の厳しさは十分理解できますが、それでもなお、障がいのある方にとって支援を受けつつ仲間と暮らすという選択もあることを望むばかりです。」

安武 志津子

『さようならバザー』 ～宝塚市手をつなぐ育成会～

長年にわたり市民の皆様を支えて頂いてきた育成会の大バザーですが、今回が最後となります。

6月29日・30日
10:00～14:00
総合福祉センター

ご来場 お待ちしています！！



長い間ご協力
ありがとうございました！



看護師さん・栄養士さんの知恵袋



「6月病」をご存じですか？なんだか身体がだるく、何をしても疲れるといふ経験はありませんか？人の体には気温の変化にあわせて体温を調節する働きがあります。4月頃から気温が上昇し始め、6月頃体がやっと慣れ始めた時に梅雨が始まり、6月頃体がやっと慣れ始めた時に暑かたたり気温の変化が大きく、その結果体がついていなくなり体調が悪くなってしまふのです。こんな時期だからこそ生活リズムを整え、晴れた日は積極的に体を動かしましょう。またストレス解消も大切です。方法の1つとして「笑う」ことの大切さをご紹介します。

〈笑いの健康効果〉

①免疫力アップ

笑うと「NK（ナチュラルキラー）細胞」が活性化されます。このNK細胞は白血球の一種で、がん細胞や細菌に感染した細胞を死滅させる力があります。つまり、笑うと免疫力が高まり、さまざまな病



気に対して強い体ができるのです。

②自律神経のバランスを整える

笑うことにより、ストレスホルモンの分泌を減少させホルモンバランスを整えます。

③脳を活性化

笑うと腹式呼吸になり、笑った時の酸素摂取量は通常の呼吸の約3〜4倍になるそうです。笑うことにより、大量の酸素が取り込まれ、細胞が活性化して脳の働きがよくなります。

看護師 渡部奈美

はじめまして。4月1日からいきいき宝夢で管理栄養士をしている木水典子と申します。

出身は広島県広島市です。趣味はフラワーアレンジメントで、8年くらい教室に通っていました。今の季節は街中に色とりどりの花が咲いていて外を歩くのが楽しいです。また自宅で育てている栗や柿を収穫してジャムを作ったりする事も趣味の一つです。最近では庭に生えているフキを刈り取って佃煮を作りました。もう少ししたら梅の実が収穫できるので、梅酒や梅干しを作ろうと思っています。

10年程前まで病院や給食会社（老人福祉施設・医院・企業の社員食堂などを担当）で管理栄養士をしていました。

仕事を覚える事もそうですが、まずは皆様の顔と名前を早く覚えたいと思います。

色々至らない点があるかと思いますが、安全で楽しい食事をめざして精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

ツナ缶ローソク

油漬のツナ缶に穴を開けて芯（ティッシュのこより・綿や麻の紐など）を差し込むだけで簡易ローソクを作ることができます。缶の油が燃料になって2時間程度もち、

ツナは燻製味で食べられます。停電対策だけでなく非常食にもなるので常備しておくとおくと便利です。



いきいき宝夢 木水典子